

天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2021年度は2名の常駐寄附講座教員で運営しました。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2021年度はクリニカルクラークシップとして、10名以上の学生受け入れを行いました。また、2人の院外の初期研修医の受け入れも行い、昨年よりもさらに前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思えます。

2. 年間活動実績

- 毎月2回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受け入れ 10名程度

3. 活動報告

◆ 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1~2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で7名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医からは総合診療科での学びは大変好評で、ほぼ毎月ローテーションする研修医がいる状態でした。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

ローテーションの最初に学習目標を設定した上で、2週間毎に個別面談を行い、具体的な診療内容の振り返りと、より高いレベルに到達するためにはどうすればよいのかフィードバックしました。ローテーションの最後には終了まとめを行い、当科での研修の総括を行います。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

● 外来担当

中村：月・木

松本：水・金

火：空田、鶴田（隔週）、谷口（隔週）

● 救急担当

適宜（その日外来担当でない医師）

Ⅲ 年間診療報告

昨年に引き続き地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV 伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームとして、嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

Ⅳ セミナー

部長代理の松本がリーダーとなり、「熊大総合診療セミナー」を主催していました。

2021年度は年間を通して計4回の開催となり、会を重ねるごとに参加者が増えており、若手からの総合診療を学ぶことのニーズを実感しております。

河浦教育拠点

1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。玉名教育拠点、天草教育拠点に引き続き3番目の教育拠点ですが、前の2つが二次医療機関での病院総合医タイプであるのに対し、河浦教育拠点は過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。少子高齢化で様々な職種の人的資源が少ない中、総合診療科医として効率よく地域づくりに貢献できるよう、日々奮闘しています。また、地域医療を行っていく中で、実践的な教育を行っていく予定です。4月に常勤の寄附講座教員1名でスタートしています。10月からはレジデント1名が派遣となり、日々、研修に励んでいます。

2. 年間活動実績

4月 1日 河浦拠点開設式
8月 6日 住民講座
8月 17日 自立支援型地域ケア会議従事者研修会
12月 2日 在宅医療サポートセンター会議
12月 8日 しきちの会
クリクラ受け入れ1名
初期研修医地域医療研修3名

3. 活動報告

◆ 教育活動

◆ 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)「地域医療」枠では1ターム3週間の実習があり、今年から、河浦拠点も研修場所になりました。コロナ禍のため、なかなか臨床現場での実習ができない状況もあり、今年度は1名の実習で終わりました。実習中は、へき地での地域医療の現実を体験してもらい、学生なりに考えてもらいました。終了日には学生発表をしました

◆ 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。また、この地域だからこそその歴史遺産見学や陶器見学、釣りなども体験してもらいました。

◆ 後期研修

10月から1名派遣されました。単に患者数を増やすことや収益を上げることを目標とせず、研修医の成長過程、臨床能力に適した診療負担となるよう診療を調整しつつ、徐々に患者数を増やしてきています。日常業務の多忙さのため予定通りできないこともあります。毎日昼に担当患者についてのカンファレンスを行い、プレゼンテーションを行っています。

また、当院には自治医出身の若手医師もいるため、一緒に小勉強会を不定期で行い、高血圧、糖尿病といったプライマリケアには欠かせない慢性疾患の勉強も行っています。

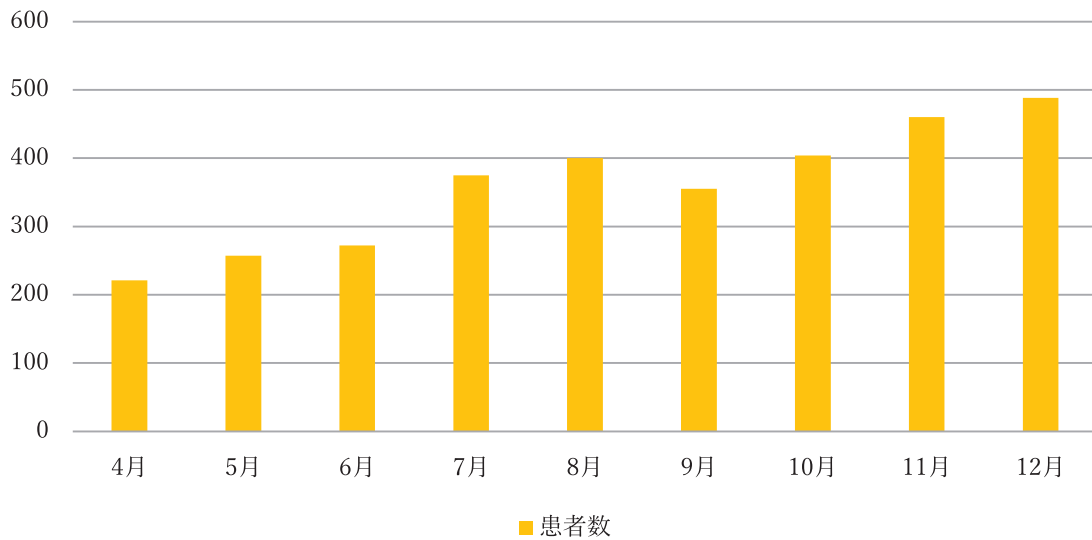
II 診療

月・水・金 鶴田（初診+再診）
火・水・木・金 本田（主に初診）
訪問診療はチームで分担 火・水・金

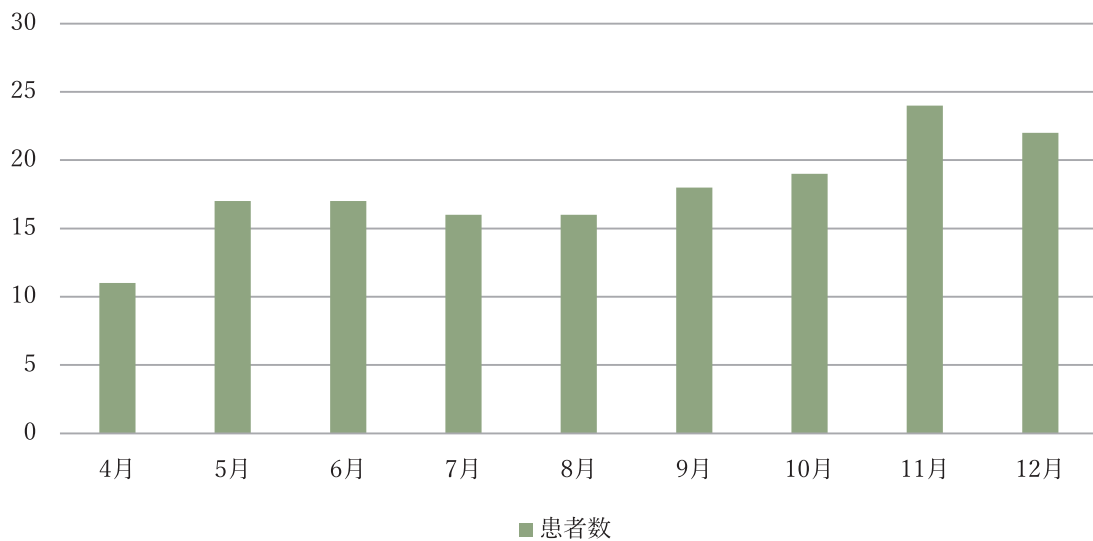
III 年間診療報告

河浦病院はもともと外科、内科、整形外科で形成されていましたが、へき地の小規模病院であるため、診療科による患者層の違いはあまりありません。総合診療科が活躍するにはベストなフィールドのひとつです。2021年4月より総合診療科の診療が開始し、さらに10月からはレジデントが一名加わり、診療患者数は徐々に伸びてきています。今後、診療を続ける中で総合診療科の認知度上昇、地域への貢献度の上昇ができると思います。

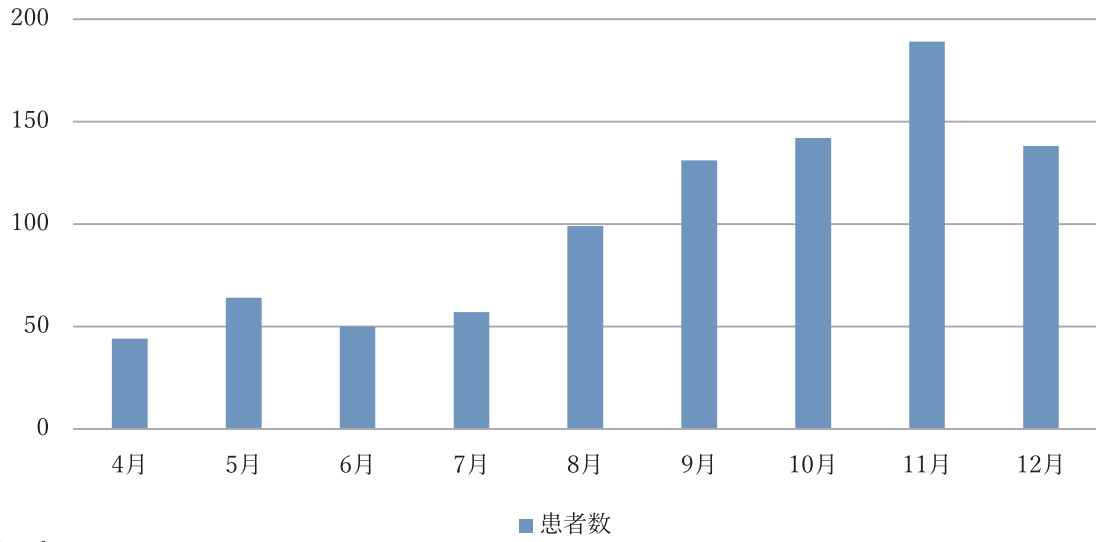
外来患者数



訪問診療登録数



1日あたり一般病棟入院患者



Ⅳ セミナー



住民講座の様子



しきちの会の様子



在宅医療サポートセンター会議の様子



研修医発表会の様子



在宅医療チーム

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモート（Zoom）での開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の学生も参加できるようZoomも対応できるハイブリット方式で、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	5人
2年生	5人
3年生	6人
4年生	7人
5年生	5人
6年生	12人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ（2021年4月15日／対面とオンラインのハイブリット方式で開催）

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

◆ 第2回地域医療ゼミ（2021年5月20日／オンラインにて開催）

漫画「19番目のカルテ」を読んで参加者で感想を述べあうなどディスカッション（マンガメデュケーション）を実施しました。コロナによりキャンパス内立入禁止となった為、急遽オンラインで開催可能なマンガメデュケーションへ変更でしたが、総合診療医の仕事について参加者の理解が深まることを期待しています。

◆ 第3回地域医療ゼミ（2021年6月17日／オンラインにて開催）

「臨床推論」をテーマにゼミを実施しました。参加者は、臨床推論のやり方についてレクチャーを受けた後、グループに分かれて、実際の症例を基に診断仮説を立てて各グループの考えを発表しました。

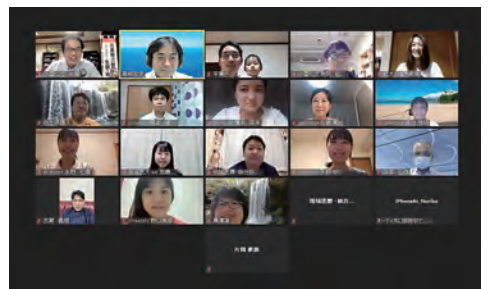
◆ 第4回地域医療ゼミ（2021年7月15日／オンラインにて開催）

修学資金貸与学生の企画で阿蘇地域の地域医療について考えました。阿蘇地域を3つに分け、3つのグループに分かれた学生たちが、それぞれアウトブレイクルームを活用してディスカッションを行い、各地区の特色に応じた問題点等を話し合いました。



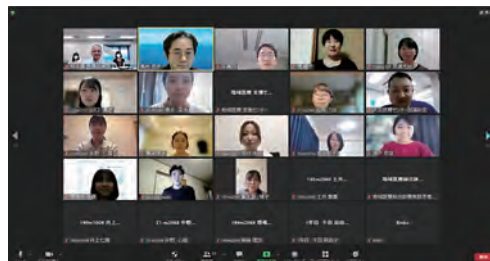
◆ 第5回地域医療ゼミ（2021年8月24日／オンラインにて開催）

新型コロナウイルス感染症に脅かされている現在において、小国町出身の北里柴三郎先生の功績から人々がどのように感染症と向き合ってきたか、小国公立病院の片岡恵一郎先生に、北里柴三郎先生の生涯、功績について講演いただきました。また、小国町で日々コロナ対応されている小国公立病院の松田圭史先生に日々の新型コロナウイルス対応についてお話しいただき、現在の新型コロナウイルス感染症との向き合い方を学びました。



◆ 第6回地域医療ゼミ(2021年9月16日/オンラインにて開催)

医師としてのキャリアと義務の両立だけでなく、ライフイベントが重なった場合にはどのようにできるのか、そのために準備は何か必要なのか等々の学生の疑問に答えるため、地域の病院でご活躍中の公立多良木病院の堤 龍子先生をお招きして、女性医師としてのキャリア・ライフプランについて講演いただきました。



◆ 第7回地域医療ゼミ(2021年11月27日/対面にて開催)

令和2年(2020年)1月に策定された『熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム』の更新にあたって、変更しようとするコース案の内容について、対象となる学生や医師の意見交換会を実施しました。

◆ 第8回地域医療ゼミ(2021年12月16日/オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、地域医療で必要と思われるスキルや学生時代にやっておくべきことは何か、などについて参加者がグループに分かれて話し合いを行いました。また、地域医療の現場で活躍される先生、また、最先端の研究活動を行っておられる先生自治医大卒の4人の先生方へのインタビューも紹介されました。

◆ 第9回地域医療ゼミ(2022年1月24日/オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和3年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「専門医を取得する!」で、「総合診療専門医取得に向けて」、「内科専門医制度について」、「未来を創る子供たちを守るのが小児科専門医」と題して3人の先生から講演いただきました。

◆ 第10回地域医療ゼミ(2022年2月2日/オンラインにて開催)

地域医療・総合診療実践学寄附講座が主催する第18回総合診療グランドラウンドに参加しました。「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」の演題で、イギリスと日本両国の診療に通じておられるNTT東日本関東病院の佐々江龍一郎先生に講演いただき、今後の日本の総合診療専門医について考える機会を得ることが出来ました。

◆ 第11回地域医療ゼミ(2022年3月24日/対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生29名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和3年度卒業生

● 村上 考利

私は8年間という少し長い期間、大学にお世話になりましたが、振り返ってみるとあっという間の学生生活でした。その中でも地域医療ゼミでの活動の思い出について、卒業というこの節目に思い起こさせて頂きます。

最も印象に残っているのは、1年生の夏季実習です。当時は基礎医学を学習し始めたばかりで、ましてや臨床の知識など微塵も持たない状態での実習でした。それどころか、宿泊合宿ということで楽しそうだな、という気持ちで参加していたのを記憶しています。しかし実習が始まると、当時の実習地である阿蘇の地域医療について学ぶことから始まり、阿蘇医療センターでは実際に実習させて頂いたり、医学部に入学してから初めて臨床というものに触れる機会を頂きました。特に実習の中でも地域医療の現場を体験できることは、卒業を控えた今考えても貴重な経験だと感じます。見知らぬ施設や機械から始まり、実際に診察する様子、行われる手技の数々…全てが新鮮で興味深いものでした。やはり初めて実習をした時のことというのは大変印象に残っており、当時の経験から今思う理想の医師像が形作られたのかなと思います。高学年になってからは、テストやコロナもあり中々実習の機会に恵まれませんでした。そのため、もう少しゼミに参加するようにすればよかったなという後悔もありますが、研修医になってからも初めて実習した時の気持ちを忘れず、何事も自ら積極的に取り組んで行きたいです。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習等でお世話になりました多くの方々へ心より感謝申し上げます。8年間という長い学生生活、ご迷惑をお掛けすることも多々あったかと思いますが、暖かくサポートして下さい、大変お世話になりました。今後は医師として微力ながら熊本に恩返し出来る様、日々医療に邁進して参ります。

● 鶴田 恵理

6年間はあっという間で、テストや部活、バイトに明け暮れるうちに気づけば卒業の日が迫っていました。特にこの2年間は新型コロナウイルスの影響もあり、一瞬で過ぎ去っていったように感じます。最初に地域医療・総合支援実践学寄付講座の方々にお会いしたのは入学前の追いコンのときで、緊張して参加したのですが、先輩方とお話させていただく中でみなさんの温かい雰囲気を感じました。

地域医療ゼミでは上級生の方々と臨床推論をしたことが記憶に残っています。1年生のころ参加したときは基礎の知識もない状態で、何がなんだか全く分からなかったのですが、5年生の方に臓器の働きから説明していただきながら最後の診断まで一緒に考え、先輩方が偉大な存在に感じたのをとても覚えています。

夏季実習は毎年異なる地域に伺い、多くのことを学ばせていただきました。夏季実習では学年を分けて実習する機会が多く、低学年時は病院や診療所というよりも、老人ホームや保健センターといった場所に行くことが多かったです。当時は現場で働く方々のお話を伺うことで精一杯でしたが、今振り返ってみると、将来同じ職場ではなくても、地域で医療をしていく中でかかせない方々がどのようなところでどういうことをされているのかを間近で見て、実際に体験することができたのは貴重な経験だったと思っています。学年が上がってからの夏季実習には、テストやコロナなどで参加することはできませんでしたが、大学の实習などで地域の病院に行く機会があり、入学当初は漠然としていた「地域で働く」ということが、少しずつ自分の中で想像することができるようになりました。

最後になりましたが、地域医療・総合支援実践学寄付講座の先生方、スタッフの方々には、6年間大変お世話になりました。地域ゼミや夏季実習を通して学んだことを活かしながら成長していけるよう頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

● 白奥 光一

気が付くと早いもので、卒業となることになりました。入学したての頃は卒業まで6年もあり、とても遠いと思っていたのですがあっという間でした。近年は新型コロナウイルスの影響もあり、大学の实習や対面での授業にも支障をきたす場面もありました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習なども一部中止となり大変残念でしたが、今まで多くの実習に参加させていただきとても勉強になりました。

6年間の振り返りとして、入学したての頃は地域医療についてどういったものなのか曖昧でしたが、大学での地域実習や地域枠での地域医療ゼミや夏季の地域実習などを経験していくにつれて地域でどういった医療が求められているのか、この地域ではどういった特徴があるのかなど、実際に現地で実習をすることで得られるものがたくさんありました。また、学年が上がっていくにつれて、必要になっていく医療の知識がどんどん増えていき、勉強しなければならぬことがたくさんあると感じました。

また、在学中には熊本での地震や人吉での水害などありましたが、多くの方と共に協力し合い乗り切ることができました。当時は不安などもありましたが、様々な経験をすることができました。特に熊本での地震の際は1年生として入学したてで、当時はまだ知り合ったばかりの同級生と助け合ったり、顔を合わせたことがなかった先輩方にも助けをいただいたりとお互いに協力し合うことの大切さと暖かさを感じました。

近年は新型コロナの影響もあり、以前と学業や生活ががらりと変わってしまった部分も多くあると思います。これからも実際どのように変わっていくのかは分かりませんが、もし困っている方がいれば自分から手を差し伸べることができるような人間になればと思います。

最後になりましたが、地域医療支援センター、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習などでも多くの方にお世話になりました。今後もしよろしくお願ひいたします。

● 佐藤 実紗

月日が経つのは早いもので学生生活も終わりを迎えようとしています。先日国家試験を終え、現在は卒業と新生活の準備を少しずつ進めているところです。

私たちは入学直後に熊本地震があった学年であり、大学の授業が始まる前にしばらく同級生と会えない生活が続いていましたが、そのときに地域医療ゼミの事務の方が安否を気にかけてくださり本当に感謝しております。

6年間の活動の中で最も印象的なのは夏季地域実習です。地域に実際に出向いてその場所で実際に暮らす方々や診療していらっしゃる先生方のお話を聞くことは普段の実習ではなかなかできないことで、とても密度の濃い時間でした。医療資源に限られる地域では、診療において教科書的な判断ではなく実際にはその方の家族背景等を加味して考えることが大事だということも勉強になりました。また実習では自治医科大学の方と話す機会が多くありとても楽しかったです。またこれからも頑張ろうというモチベーションになっていました。

普段の地域医療ゼミはコロナ渦の中ではオンラインという形で先生方が企画を考えてくださり、多くの先生方のお話を聞くことが出来ました。すでに卒業された地域枠出身の先生がどんなキャリアを歩まれているかを話してくださる時間もあり、自分がどんな方向に進んで行くのかをイメージしやすくなりました。

6年間多くの方に支えられて勉強や部活、遊びどれも全力で取り組むことが出来ました。これからは今までの生活とは一変し社会人としての生活が始まりますが、周りへの感謝を忙しい日々の中でも忘れないように過ごしていきたいです。

地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、事務の方々、そして県の医療政策課の方々、これまで多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで安心して大学生活を送ることが出来ました。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

● 武元 勇人

入学当時、大学生活6年間はとても長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業となってしまいました。この6年間でふり返ってみると、とても充実し学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は医学の知識もほとんどなく、上級生の先輩方に様々なことを教わりながら地域ゼミに参加していました。自分が上級生になって、あの頃先輩たちから教わったことを思い出すことで、勉学への理解がより一層深まったことも多々ありました。また、後輩たちに地域ゼミをどのようにして楽しんでもらうかを考えることは予想以上に難しく、先輩たちの偉大さを感じました。

さらに夏季実習では、自治医大生と共にフィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を

知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった熊本の医療に携わっていくうえで知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運び深く学習したことはとても印象に残っています。

このようなゼミや夏季実習で様々な学びや地域の医療に携わる人たちの考えに接していくうちに、初めのうちはぼんやりとしていた地域医療についてくっきりとしてきて、その中で自分が将来どのように地域医療に携わっていけばいいか、また、どのようにすれば地域の医療に貢献できるかなどの考えが年々具体的になっていきました。これもすべて地域ゼミの機会を設けてくださった多くの方々のおかげであり、これらを通して考えたことや感じてきたことを活かしてしっかりと地域の医療に貢献をしていけたらと思います。

● 高橋 啓太

長い道のりに思えた6年間の大学生活は小学校の6年間とは違い、あっという間に過ぎてしまいました。大学に入学した6年前、今の自分の姿を想像することはできませんでした。

入学式が終わり学年での合同合宿で同級生のことを知って、これからスタートだというタイミングで熊本地震が発生しました。ライフラインが止まり、1日1日の生活を考えながら過ごしていたら、あっという間に5月になっていました。この1ヶ月はこの6年間で最も短く感じた1ヶ月でした。

毎月開催される地域医療ゼミや夏季実習は、学年の垣根を越えて地域医療を深く考える特別な時間でした。特に印象に残っているのは、夏季実習で益城のテクノ仮設団地に訪問生活調査を行ったことです。皆で麦わら帽子をかぶり、1軒ずつお話を伺ったあの時間を忘れることはありません。その日宿泊した阿蘇の露天風呂が非常に気持ちよかったことも忘れないでしょう。ここ2年間は新型コロナウイルスの猛威により夏季実習は開催されていませんが、地域枠で入学したからこそ、学生のうちに県内各地域の医療や産業、食を自分の体で感じる事ができたと思います。

新型コロナウイルスの影響は病棟実習にも及び、リモートでの実習期間も長引きました。自分の目で見て手を動かす経験は通常より減りました。国試直前期も大学の図書館や勉強部屋が使えないなどありましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様のサポートもあり、無事に卒業の日を迎えることが出来そうです。6年間ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

● 持田 香織

6年前に入学したときには、卒業はとても先のことだと思っていましたが、卒業を間近に控えた今振り返ってみると本当にあっという間の6年間でした。そしてこの6年間で数えきれないほど様々な経験をすることができました。6年間の地域医療ゼミ中でも特に印象に残っていることは、夏の地域医療特別実習と5年次のゼミです。

夏の地域医療特別実習は毎年異なる地域で実施されているため、複数の地域を比較しながら学び、同じ熊本とはいえ異なる特性や課題点を実際に自分の目で見て感じて学び取ることが出来たことは、大変貴重な経験でした。卒後地域で従事させていただく際にも、その地域を知り、そして地域に寄り添った医療を行えるよう、夏季実習から得た学びを活かしていきたいと考えています。

5年次には幹事学年として地域医療ゼミを運営することとなりましたが、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめた頃で、例年のように4月からスタートを切ることが出来ませんでした。先生方にサポートしていただいたことで、Zoomを使ってゼミを行うことができました。それまでの対面でのゼミを踏襲しつつZoomでも可能なやり方で行うことは大変でもありましたが、4年までと違い自分たちで内容の提案を行うために、将来地域に従事する医学生として学ぶべきことは何か、今の自分たちに足りないことは何かをより深く考える機会となり、大変学びの多い1年でした。

6年間の学生生活を終え、スタートラインに立つことになりましたが、大学で培った経験や多くの学びを糧とし、これからも少しずつ前に進んでいけるよう精進したいと思います。

6年間本当に沢山の方々にお世話になりました。関わって下さいました全ての方々にご心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

● 吉岡 幸英

入学時には長いと思っていた6年間も、今振り返ってみるとあっという間のように感じています。入学して数日の地震に始まり2年間のコロナ禍での病院実習で終わるという通常では体験することのできない、濃い6年間を過ごすことができたと思います。この6年間を金銭面などの憂いなく過ごすことができたのも、熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげであり、大変感謝しております。地域枠の活動としては1年次の夏季地域医療特別実習が特に思い出に残っています。前述した震災直後ということもあり、益城町に設置された仮設住宅にて聞き取り調査をさせていただきました。この聞き取り調査で、普段生活している中では気付くことができないほどに当たり前存在している、住んでいる地域で形成されたコミュニティの重要性を学ぶことができました。この経験は自分の中で地域医療について考えるきっかけとなりました。まだ医療については何も学んでいないと言っても過言ではないような1年生ではありましたが、このような機会に早めに恵まれて良かったと思います。

また、毎月開催される地域医療ゼミでは医療関連の知識を深めるだけでなく、物事の考え方についても学ぶことができました。参加させていただいた多くの会で様々な角度から「こんなことに疑問を持ってみてはどうだろう」という導き方をされていて、疑問を持って物事を見ていくことで理解が深まっていくのを実感することができました。他にも、あえて低学年の学生を指名して発表をする場面を与えてくださるのは、人前での発表を苦手としていた自分にとってはとても良い経験になりました。

ここに書いたこと以外にも多くのことを熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげで学ぶことができました。来年度からは医師としてここで学んだことを活かしていくよう努めて参りますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

● 五江 景明

自分は地域医療ゼミには2年生から参加させて頂きました。大学生活の後半は新型コロナウイルス感染症の流行があり、ゼミの活動も制限されてしまいましたが、地域医療ゼミでは多くのことを学ばせて頂きました。

毎月の地域医療ゼミでは、実際に地域医療に従事されている先生方のお話を拝聴したり、専門医制度や自分のキャリアについて考えたり、その他シネメディケーションなどを通じて学年を超えて多くの方と議論したりと、色々な角度から医療というものを考えることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また、色々な活動の中でも特に印象に残っているものはやはり夏季実習です。私は天草と水俣の2回の実習に参加させて頂きました。県外出身の私にとって、自分が将来仕事で関わるかもしれない県内の地域医療の現場に行くことはとても貴重な経験となりました。実際に地元の方たちとお話したり、問題点等も含めて地域の実情を自分の目で見たりすることで、医療だけではなく文字通り地域そのものについて理解を深めることができました。

夏季実習に参加する前の私は、地域医療とは基本的には住民の高齢化が進んでおり、医師や医療設備が十分でない地域で行われる医療である、という漠然としたイメージしか持っていませんでした。そして、どこの地域でも抱えている問題は程度の差こそあれ、大きな違いはあまりないのではないかと考えていました。しかし、夏季実習に参加したことで、一口に地域医療と言っても、住民のライフスタイルや医療に関する考え方、疾病構造等は地域ごとにそれぞれ異なるということをもっと実感できました。今後医師となって地域医療に従事する際には、目の前の患者さんは勿論のこと、それ以外にもその地域に関する様々なことに興味を持って地域医療に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、長きに渡り貴重な学びの機会を提供して下さいました先生方、関係者の方々には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. 活動概要

本講座は、熊本県の地域医療連携ネットワーク構想を推進するため、県知事が各医療圏域に指定する「地域医療拠点病院」への医師派遣により専門医療を実践するとともに、医師会や行政と協力しながら地域医療連携強化に努め、また、医師修学資金貸与医師や自治医科大学卒業医師へのキャリア形成支援、各医療圏域における医療機能の向上を図るための調査・研究を行うことを目的に、熊本県の寄附を得て、令和元年度から令和3年度までの3年間を予定して設置されました。これまでの実績に基づき、令和4年度からさらに3年間、設置が継続されることとなりました。

本年度は、熊本大学病院の各診療科より選出された24名の専門医が当講座に所属し、ネットワーク推進医として地域医療拠点病院に派遣されました(下表)。

令和3年度（2021年度）地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座 教員等一覧

部門	診療科名	定数	特任教員氏名 (ネットワーク推進医リーダー)	職名	派遣先拠点病院
内科	腎臓内科	12	泉 裕一郎	特任准教授	宇城総合病院
	呼吸器内科		猪山 慎治	特任助教	人吉医療センター／山鹿市民医療センター
			坂田 晋也	特任助教	阿蘇医療センター／荒尾市民病院
			赤池 公孝	特任助教	小国公立病院／荒尾市民病院
	消化器内科		階子 俊平	特任助教	くまもと県北病院
			具嶋 亮介	特任助教	阿蘇医療センター／熊本労災病院
	血液内科、膠原病内科		宮本 英明	特任助教	山鹿市民医療センター
			上野 二菜	特任助教	人吉医療センター
	糖尿病・代謝・内分泌内科		小野 薫	特任助教	小国公立病院／上天草総合病院
	循環器内科		石井 正将	特任助教	公立多良木病院
平川 今日子		特任助教	上天草総合病院		
伊藤 美和 (R3.4～R3.8) 尾池 史 (R3.9～R4.3)		特任助教	上天草総合病院		
外科	消化器外科	4	江藤 弘二郎	特任助教	水俣市立総合医療センター
			美馬 浩介 (R3.4～R3.9) 小川 克大 (R3.10～R4.3)	特任助教	熊本再春医療センター
	乳腺・内分泌外科		後藤 理沙	特任助教	水俣市立総合医療センター
	泌尿器科		脊川 卓也	特任助教	人吉医療センター
成育医療	小児科	2	松尾 倫	特任助教	小国公立病院
			宮村 文弥	特任助教	小国公立病院
感覚・運動	整形外科	5	徳永 琢也	特任助教	小国公立病院
			久永 哲	特任助教	宇城総合病院
			湯上 正樹	特任助教	阿蘇医療センター
	眼科		中島 圭一 (R3.4～R3.5) 福島 亜矢子 (R3.6～R4.3)	特任助教	小国公立病院／熊本総合病院
			福島 亘希	特任助教	小国公立病院／熊本労災病院
脳・神経・精神	神経精神科	1	本田 和揮	特任助教	熊本県立こころの医療センター
合計		24			

2. 活動報告

◆ 地域医療拠点病院における専門医療の実践

ネットワーク推進医は、各地域医療拠点病院で不足する専門診療に応じて、週1~2回、定期的に外来診療や救急当直診療を行いました。また、常勤医師と協力して、入院患者への専門的診断と治療を提供しました。拠点病院に勤務する専攻医などの若手医師に対しては、医療技術の指導などを行いました。より高度な医療を必要とする際には、熊本大学病院などの高度医療機関に適切に紹介、転院を進める橋渡しの役割を担ってきました。さらに、ネットワーク推進医の派遣は、拠点病院の常勤医が近隣の診療所へ赴き業務を行う「玉突き派遣」体制の確立にも貢献しました。そのほか、隣接する拠点病院に派遣された専門の異なるネットワーク推進医間で患者の紹介を行うといった、良い連携の事例もあり、当講座の最も重要な役割である、地域完結型の医療に大きく貢献できたものと考えています。

◆ ネットワーク推進医の具体的業務と成果

各地域医療拠点病院に派遣されたネットワーク推進医から報告のあった「地域医の拠点病院における専門医療の実践」にかかる具体的な業務と成果について、主な内容は次の通りです。

① 症例数・患者数について

- 外来診療と専門的な医療を提供し、他の診療科からの患者のコンサルトに対応し、適宜診療・治療介入を実施。この結果、事業開始前に比べ、患者数が増加。近隣のクリニックからの紹介患者と検診後の精査目的の受診の増加が主な要因と考えられる。
- 派遣先病院のかかりつけの患者や紹介患者を中心に診察。健康診断で異常を指摘されたり、近隣の開業医では難しい治療法の導入を目的とした患者の受診が増え、専門性が求められることが多くなってきた。このため、最近では、患者数が増加傾向にあり、紹介元の病院も近隣の開業医のみでなく、熊本市内はじめ地域外の医療機関も増えている。
- 推進医の派遣によって、高度な医療水準、管理能力が必要な診療行為についても派遣先病院での対応が可能となり、熊本市内への移動が困難な高齢の患者等についても安心して診療・治療を受けることができ、外来患者数、手術件数が年々増加する傾向がみられる。
- 内視鏡検査等の指導を継続的に行うことにより、病院における症例が増加している。また、指導の継続により、派遣先の病院に勤務する常勤医師で検査・治療が完結する症例も増加する傾向にある。
- 派遣先病院における専門診療科医師の退職により、ネットワーク推進医が外来診療を引き継いだところ、治療(化学療法)の件数が増加。熊本市内の基幹病院で対応された症例の治療の継続を依頼される件数が増加しており、地元で治療を受けたいという患者の要望に応えることとなっている。
- 地域の開業医から派遣先病院への紹介患者数が年々増加する傾向にある。
- コロナ禍の中、患者数が全体的に減少しているといわれる中で、派遣された診療科の患者数は、コロナ禍前の令和元年度から横ばい状態を保っている。
- 派遣先の地方中核病院のベテランの診療科医師が令和元年度途中で退職することにより、手術経験の少ない医師を補助するために推進医を派遣。ベテラン医師退職後の令和2年度は手術症例数の減少がみられたが、3年度になり手術症例数が回復している。

② 派遣先病院における人材の育成と常勤医の負担軽減

- 若手の医師に対する院内コンサルトの症例を通して疾患に対する専門的知識や技術の指導を実施し、専門的の検診や診療が派遣先の病院で実施可能となった。
- 入院患者、外来患者の他科コンサルトについて、常勤医のほか研修医からの診察依頼にも対応しており、研修医のスキル向上にも貢献している。
- ネットワーク推進医の派遣により、1人しかいない派遣先病院の当該診療科の常勤医の負担軽減が図られた。
- 救急外来診察と手術支援を行うことにより、派遣先病院の常勤医師の負担軽減と地域における手術の質の向上につなげることができた。

③ 地域の医療機関及び院内の診療科間における連携体制強化

- 本事業によるネットワーク推進医の派遣により、他診療科で診療に難渋している症例などのコンサルトがより円滑になり、医師同士のネットワークも広がり、病院内の専門医療の提供体制の充実がみられる状況にある。
- 常勤医のいない診療科において、専門的な診療の提供、院内コンサルトの対応とともに必要に応じて近隣の専門診療施設との連携を取って地域医療を実践。
- 推進医の派遣により手術が必要な症例の派遣先病院への紹介が進み、術後のリハビリテーション目的での転院調整の連携が進められことがうかがわれる。また、症例の重症度に応じて近隣病院との連携でトリアージ等にも重要な役割を担っている。
- 難易度の高い症例については、大学病院に迅速に紹介できる体制が構築されており、熊大病院で治療を行い、経過観察を派遣先の病院で行うという役割の分担もでき、医療連携体制が向上したといえる。
- また、重症患者は熊本市内の病院に搬送し、軽症から中等症の患者を派遣先病院で完結させるよう役割の分担が図られ、地域医療の充実につながっている。

④ 地域の拠点病院としての役割の充実

- 派遣医師が常勤医に代わり外来診療を行うことにより、常勤医が近隣の診療所等で診療や検診等を円滑に実施できる体制を構築している。
- ネットワーク推進医が、夜間の救急外来を担当し、地域の拠点病院の救急患者対応に貢献。
- 高齢化する地域において、推進医をはじめ非常勤医の派遣は、他地域への移動が困難な高齢者や障害のある方等にとって、地域の病院で診療を受けられるということは非常に有意義。当寄附講座による医師派遣が持続的な地域医療提供体制の保持に貢献しているといえる。

また、ネットワーク推進医からは以下のような指摘もなされています。

- 地域医療を支える地域医療機関の常勤医を支援することは、地域において持続可能な医療提供体制の構築を図るうえで必要。
- 近隣の医療機関や大学病院はじめ基幹病院との患者情報の共有、連携をさらに促進することが必要。
- 地域の拠点病院内の各診療科のさらなる連携による、より適切な医療サービス提供を進めることが必要。

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座としては、このような報告を踏まえて、地域完結型の医療提供体制のさらなる充実に向けて、取組を進めていくこととしています。

◆ 地域住民への啓蒙活動の実践

ネットワーク推進医は、派遣された医療圏において、それぞれの専門領域についての啓蒙活動を行っています。令和3年度も、繰り返されるCOVID-19の感染拡大のために活動はかなり制限されましたが、可能な限り、院内研修会や地域の医師会などの講演会に参加し、専門医療の最新の知識の普及に努めました。

◆ くまもとメディカルネットワーク(KMN)の普及活動

地域医療連携ネットワークの構築のためには、ネットワーク推進医の派遣による人的ネットワークの形成と共に、Information and Communication Technology (ICT)を用いた情報ネットワークの形成が重要です。当講座では、各地域医療拠点病院と協力して、熊本県独自の医療情報連携ネットワークであるくまもとメディカルネットワーク(KMN)の普及に努めております。KMNによる新しい情報ネットワークの確立は、患者様への過剰な検査や処方減らし、医療機関の連携の中で安全・安心で質の高い医療の提供につながるものです。また、私たち医療従事者の業務効率の向上、ペーパーレス化・CD-R不要化によるコスト削減なども期待できます。さらに、ICTによる強固な情報ネットワークは災害にも強く、紙媒体などを介したCOVID-19などの感染対策にも有効と考えられます。

令和3年度は、前年度にネットワーク推進医により情報収集された各拠点病院のKMNの利用状況を踏まえて、特にKMNの文書送受信機能の利用数増加に注力しました。ネットワーク推進医は、派遣先病院の

地域連携室などと協力し、文書送受信機能を用いて、診療情報提供書や画像ファイルを紹介先へ送信する体制の整備に努めてきました。その結果、地域間での差はあるものの、普及の遅れていた病院においても、KMNの利用が少しずつ増えてきています。また、比較的普及が進んでいたいくつかの施設は、大学病院への診療情報等の提供の方法について、これまでの郵送・手渡しからKMNの文書送受信機能へほぼ一本化するに至ったところです。

◆ 地域医療の現状分析、解決策などの検討

令和3年度も、繰り返されるCOVID-19の感染拡大のため、ネットワーク推進医が一堂に会しての議論を交わすことはかなわなかったのですが、各ネットワーク推進医からの報告書を基にした書面会議による事業検討会を2回開催しました。

その中で、各圏域の地域医療の現状と問題点が報告され、その解決策について検討されました。例えば、地域住民の高齢化にともない、患者の高齢化も進んできていることが多く報告されました。高齢者は複数の疾患を合併しており、体力的な負担を考慮した慎重な検査・治療を必要とするので、単一の施設での対応は困難です。そのため、同じ医療圏の施設間での連携により、不足する専門医療を補完する体制の強化や、ICTを用いた遠隔医療を確立することが対策となると思われます。さらに、高齢者のケアには、看護・介護サービスの介入が必須であり、その地域格差の存在がうかがわれ、今後より詳しい調査が必要と思われます。

1. 地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

□ 高柳 宏史（執筆）

プライマリ・ケアの理論と実践

監修 日本プライマリ・ケア連合学会 出版社 日本医事新報社

第6章—28. ICPCを用いたプライマリ・ケアにおける研究 ～家庭医療における受診理由の意味とは、p54-55

◆ 研究

□ 後藤 理英子（共同研究者）

【女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究】研究種目：基盤研究C，研究分野：社会関連学，研究期間：2019/4-2022/3

□ 後藤 理英子【日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。】研究期間：2019/5/15～2024/3/31

◆ 学会発表

□ 後藤 理英子ほか 佐賀（オンライン）

【医療界のダイバシティ実現を目指して ～ジェンダー・ダイバシティの苦勞～】

第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2021/5/21-23

□ 後藤 理英子ほか 栃木（オンライン）

【多様なライフスタイルに合わせた専門医教育・医師の働き方の再構築の必要性】

第53回日本医学教育学会大会 2021/7/30-31

□ 高柳 宏史 座長・導入演者

第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 福岡大会

シンポジウム「プライマリ・ケアにおける国際分類の活用法～新しく改訂された分類（ICD-11、ICPC-3）から読み解く将来の展望～」

タイトル「シンポジウム導入」

◆ 講演会・講師

□ 後藤 理英子【レジリエンス（折れない心）のつくりかた～人間関係に悩むあなたに～】

雲柱社合同研修会 2021/11/22

□ 後藤 理英子【令和3年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会】2021/11/25-27

□ 後藤 理英子【レジリエンス（折れない心）のつくりかた】2022/1/9 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会 13：20～14：50

□ 後藤 理英子【仕事に役立つ「コーチング」】2022/1/9 15:00～16:30 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会

□ 後藤 理英子 第158回全自病協・国診協 臨床研修指導医講習会 2022/1/15-16

□ 後藤 理英子【熊本県における医師の男女共同参画活動について】2022/1/18 地域における女性医師支援懇談会～クローバーの会～

□ 後藤 理英子【熊本県における医師の男女共同参画活動について】2022/1/24 令和3年度 医学生、研修医等をサポートするための会

□ 後藤 理英子 2022/1/29-30 第159回全自病協・国診協 臨床研修指導医講習会

□ 後藤 理英子【熊本大学病院における育児・介護のための取り組みについて】2022/2/4

令和3年度 育児・介護支援情報会

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- 谷口純一、吉野俊平、高山耕治、西知世、桑野公輔、菅沼明彦、中田浩智、加島雅之、山本英崇、本田裕之、鋪野紀好、松本正孝、須眞司、『CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～ AIDS 発症後、低体温、急性肝腎障害をきたした31歳の男性』、日本内科学会雑誌、第110巻 第9号、2048-2066,2021
- 小山耕太、宮川寿一、田宮貞宏(企画担当者：谷口純一)、『地域中核病院で、新型コロナ感染症拡大にどう対応するのか』、日本内科学会雑誌、第110巻 第6号,1204-1207,2021
- Saori Nonaka, Tetsuya Makiishi, Yoshito Nishimura, Kazuya Nagasaki, Kiyoshi Shikino, Masashi Izumiya, Mitsuru Moriya, Michito Sadohara, Yoichi Ohtake, Akira Kuriyama
Prevalence of Burnout among Internal Medicine and Primary Care Physicians before and During the COVID-19 Pandemic in Japan
Internal Medicine
DOI:10.2169/internalmedicine.8118-21
- Akira Kuriyama, Kiyoshi Shikino, Mitsuru Moriya, Michito Sadohara, Saori Nonaka, Kazuya Nagasaki, Yoshito Nishimura, Takahiro Matsuo, Kumiko Muramatsu, Tetsuya Makiishi
Burnout, depression, anxiety, and insomnia of internists and primary care physicians during the COVID-19 pandemic in Japan: A cross-sectional survey
Asian journal of psychiatry
2021;68;102956
- Joishy S.K, Sadohara M, Kurihara M, Tokuda Y
Complexity of Diagnosis of COVID-19 in the Context of Pandemicity: Need for Excellence in Diagnostic Acumen
Korean J Fam Med
2022;43(1):16-26
- Michito Sadohara
"Abbreviation Arrangement" Syndromes, i.e., Names and Natures Do Often Disagree
JMA Journal
2022;5(1):132-134

◆ 研究

- 谷口 純一(共同研究者)
『Entrastable Professional Activityを基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目：基盤研究B 研究分野：医学教育 期間：2017年度～2021年度
- 佐土原 道人【地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関する質的研究】2018/8/20～2022/3/31
- 佐土原 道人【働き方改革のためのホスピタリスト・システムの導入に対し、米国で働く日本人のホスピタリストはどのような見方をしているか？】2018/9/20～2022/3/31
- 佐土原 道人【地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関するアンケート調査】2019/6/21～2022/3/31
- 佐土原 道人【令和元年度夏季特別実習前後での参加学生の意識および知識の自己評価の変化に関する研究】2020/3/19～2022/3/31

◆ 学会発表

- 谷口純一,【CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～】、第118回日本内科学会総会・講演会、2021/4/9-4/11、オンライン配信、東京都(ハイブリッド開催)

- 谷口純一,【熊本県における総合診療医の養成と地域医療改善の取り組み】, 第12回プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2021/5/22-5/23, オンライン配信, 福岡県(オンライン開催)
- 谷口純一,【医療面接実習の代替の個別課題の試み】, 第53回日本医学教育学会大会, 2021/7/30-7/31, オンライン配信, 栃木県(オンライン開催)
- 谷口純一,【シンポジウム リベラルアーツから地域医療へ】, 第53回日本医学教育学会大会, 2021/7/30-7/31, オンライン配信, 栃木県(オンライン開催)
- 鋪野 紀好, 西村 義人, 泉谷 昌志, 野中 沙織, 大武 陽一, 松尾 貴公, 川嶋 乃里子, 森谷 満, 栗山 明, 山本典子, 佐土原 道人, 牧石 徹也, 長崎 一哉
ACP(米国内科学会)日本支部年次総会 2021/6/27 オンライン
【Well-being championになろう! バーンアウトからチームを守るために】
- 佐土原 道人 第42回臨床薬理学会 2021/12/11 仙台
【シンポジウム: 研究公正・研究倫理のセンスを身につけた臨床薬理研究者の育成
テーマ: 臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的な研究倫理学習プログラムを経験して】

◆ 講演会・講師

- 谷口純一, 熊本大学病院 看護師特定行為研修 「臨床推論: 医療面接」等, 講師, 2021/5/27、6/4、6/10
- 谷口純一, 熊本大学病院臨床研修指導医ワークショップ 「社会が求める医師の基本的臨床能力とは？」等, 講師, 2021/12/4、2022/1/8
- 谷口純一, 熊本大学病院ICLS, 心肺蘇生法 導入 等, 講師, 2021/11/13
- 谷口純一, 令和3年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ「地域枠学生」, モデレーター, 2021/7/15
- 谷口純一, 熊本保健科学大学 認定看護師教育課程カリキュラム 「臨床推論: 医療面接」「臨床推論: 医療面接(評価)」, 講師, 2021/8/27
- 谷口純一, 令和3年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修 「withコロナ時代の日常診療におけるメンタルな問題とケア」, 講師, 2021/12/25
- 谷口純一, 国立大学法人九州大学医学部 「総合医学Ⅲ・系統医学Ⅲ」臨床推論, 非常勤講師, 2021/10/1～2022/3/31
- 谷口純一, 令和3年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会 臨床研修プログラム立案作業「目標」, 講師, 2021/11/25-2021/11/27
- 谷口純一, 全国自治体病院協議会 第157回臨床研修指導医講習会 「卒前医学教育の概要」, 講師, 2021/12/18-12/19
- 谷口純一, 九州ルーテル学院大学 「医学一般/人体の構造と機能及び疾病」, 非常勤講師, 2021/9/24-2022/3/31
- 谷口純一, 全国自治体病院協議会 第158回臨床研修指導医講習会 「卒前医学教育の概要」, 講師, 2022/1/15-1/16
- 谷口純一, 全国自治体病院協議会 第161回臨床研修指導医講習会 「社会が求める医師の基本的臨床能力とは?」, 講師, 2022/2/19-2/20
- 谷口純一, 令和3年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会 臨床研修プログラム立案作業「目標」, 講師, 2021/10/28-10/30
- 谷口純一, 熊本総合診療研究会主催 専攻医学講習会 「模擬診療形式シミュレーション学修」, 講師, 2021/7/4
- 谷口純一, 第4回Whole Person Care研究会 「マインドフルネス」, 講師, 2021/8/7
- 佐土原 道人【2021年度 第1回看護師特定行為研修指導者講習会(オンライン)】2021/7/4 講習会のタスクフォース
- 佐土原 道人【2021年度 第5回看護師特定行為研修指導者講習会(オンライン)】2021/11/3 講習会のタスクフォース

- 佐土原 道人【熊本大学病院看護師特定行為研修】2021/5/26、6/9、6/16 演習の講師
頭痛、胸痛、腹痛；吐下血、呼吸困難、発熱；呼吸器症状の画像診断、臨床疫学
- 佐土原 道人【熊本保健科学大学認定看護師教育課程 フィジカルアセスメント基礎】2021/8/25 演習・実習の非常勤講師 フィジカルアセスメント基礎
- 佐土原 道人【佐久大学大学院看護学研究科 プライマリケア看護学演習Ⅰ】2021/1/11 非常勤講師 プライマリケア看護学演習Ⅰ
- 佐土原 道人【第26回徳洲会グループ臨床研修指導医養成講習会(大阪)】2021/12/4-5 講習会のタスクフォース
- 佐土原 道人【第159回全自病協・国診協臨床研修指導医講習会(オンライン)】2022/1/29-30 講習会のタスクフォース

その他(委員会等)

- 谷口純一，一般社団法人 日本内科学会 専門医部会委員(九州支部支部会長)，委員，2021/7/20、11/19
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 生涯学習部会，部会長
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 総務部会，委員
- 谷口純一，日本専門医機構 総合診療部門 専門医試験部会，筆記試験問題作成、面接試験官，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 プレCC OSCE外部評価者認定専門部会，部会長
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 プレCC OSCE課題改訂部会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 ポストCC OSCE課題改訂部会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 総合評価解析小委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 動画作成委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 e-learningプロジェクトチーム，チーム委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 実施管理委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 実習事業小委員会，委員
- 谷口純一，公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 OSCE機構派遣監督，監督者
- 谷口純一，日本プライマリ・ケア連合学会，代議員
- 谷口純一，日本医学教育学会，代議員
- 谷口純一，日本医学教育学会 地域医療教育部会，部会委員
- 谷口純一，熊本総合診療研究会，世話人代表
- 谷口純一，九州大学医学部プログラム評価委員会，委員
- 谷口純一，全国医学部長病院長会議 カリキュラム委員会，委員
- 谷口純一，九州在宅医療推進フォーラム実行委員会，委員

3. 教育拠点(くまもと県北/天草)

◆ 学会発表

- 小山 耕太 松岡 準平 田宮 貞宏 松井 邦彦
第336回日本内科学会九州地方会 2022/1/29 福岡市 (Web 開催) 【訪問診療で経過観察中、低栄養を契機に直腸癌と診断した1例】
- 小山 耕太 田添 英典
日本プライマリ・ケア連合学会 第16回九州支部会・学術大会 2022/2/12 鹿児島市 (Web 開催) 【頭痛を主訴に来院した15歳女兒の一例】
- 小山 耕太 嶋永 翔太
日本プライマリ・ケア連合学会 第16回九州支部会・学術大会 2022/2/12 鹿児島市 (Web 開催) 【原因として非癌攣性てんかん重積状態(NCSE)が考えられた急性意識障害の1例】

- 松本朋樹 飯塚 - 穎田キャリアセミナー 2021/8/21 【地域で開業するというキャリア】
- 松本朋樹 本田優希, 工藤仁隆, 合田建 2022/2/5-6 【若手のための家庭医療冬期セミナー】

4. 総合診療科医局員・専攻医(総合診療専門研修プログラム)

■学会発表

- 武末真希子 第 333 回日本内科学会九州地方会 2021/6/5 【結核性腸腰筋膿瘍、化膿性脊椎炎に対し、抗結核薬、穿刺ドレナージにより治癒した一例】
- 松田圭史 1, 片岡恵一郎 1, 寺倉宏嗣 1 (1. 小国公立病院) 第 25 回熊本県国保地域医療学会 阿蘇、Web 開催 【小国郷における在宅医療提供体制の構築】

■講演等

- 空田健一 福祉講座「在宅医療と訪問介護について」2021/10/28 講師 【在宅医療】
- 平賀 円
 - 講演：令和 3 年度医学生、研修医等をサポートするための会
 - 日時：令和 4 年 1 月 2 4 日（月）午後 6 時 30 分～
 - 場所：熊本県医師会館
 - タイトル：「総合診療科専門医取得に向けて」